

続・大阪の庭

藤井 里江

【目的】

京都には観光名所として名高い庭が多数存在し、日本各地より観光客が訪れている。多すぎて、どの庭を見に行こうかと迷う程である。大阪も同じ関西の観光地ではあるが、庭については比較対象にもあがらない。そんな大阪で「庭」に注目して、府内の庭を巡見した結果を基に、庭巡りのお勧め、庭巡りと共に楽しむ歴史や文化の再発見を目的としてまとめることとする。

【内容】

京都では国、府、市の指定・登録名勝（庭）は93庭（京都府・市町村共同統合型地理情報システムより）あり、大阪では国、府、市の指定・登録名勝（庭）は17庭で、その数の差は歴然としている。しかし、京都では寺院の庭が約8割であるのに対し、大阪は5割程（7庭）である。指定名勝、登録名勝の庭以外のところも含めると、江戸時代の豪商・庄屋、明治以降の財閥の旧邸など大阪で材を成した民間人の手により造られた庭が多数残って公開されていることは、経済的に繁栄した大阪の様子を表す特徴ではないだろうか。また戦後焼け野原となって多くの庭が焼失した大阪市内においても、重森三玲氏作庭の豊國神社の庭、大阪万博内日本庭園に参画した荒木芳邦氏によるリーガロイヤルホテルメインロビーの庭、愛知万博日本庭園を手掛けた野村勘治氏によるセントレジスホテルの庭など、現代の作庭家による新しい庭が造営されている。古い時代の庭、豪商・庄屋・実業家達の民間の庭、現代作庭家による庭、様々な庭の様子を楽しむことができるのが大阪の庭巡りの楽しみの一つではないだろうか。

【結果】

前年度から今年度において巡った庭（非公開庭を除く）より40庭を体系化し、一覧と写真を本文に記す。また庭巡りのきっかけとして、「気分別庭巡りの勧め」をご紹介します。

現在、大阪で庭を一番の目的として出掛ける機会はまだ多くないと思うが、それぞれの庭では、観月会や演奏会やイベントなどが行われているところもある。そういった行事をきっかけとしたり、誰かの印象に頼ってみたりしてまずは庭へ出かける機会を作り、周知が広がることによって庭の維持管理が進んで、さらに人を呼ぶ。といった効果がでることを期待する。








































1. 大阪の庭

庭は、政治的歓待の場、財界人の交流の場、文人趣味の場、江戸時代には料亭などの庶民の遊興の場、寺などの思想的な場などに造られる副産物的なイメージが強い。二番手的な庭に注目し、それらを集めるとどれくらい大阪に存在するのか。庭が名勝として指定されているところを手始めに、庭だけに注目して巡った結果を2項では成り立ちの分類で、3項では地域別に表した。

2. 巡見庭成り立ち分類表

No.	分類	名称	所在地	名勝指定・登録
1	豪商	鴻池新田会所跡庭園	東大阪市	
2	豪商	加賀屋新田会所跡庭園	大阪市住之江区	
3	庄屋	旧河澄家庭園（棲鶴楼庭）	東大阪市	
4	庄屋	旧中西家庭園	吹田市岸部中	国登録
5	庄屋	旧西尾家庭園	吹田市内本町	国登録
6	実業家	旧貴志邸茶室庭園	大阪市都島区	
7	実業家	旧藤田邸庭園	大阪市都島区	大阪市指定
8	実業家	旧住友邸「慶沢園」	大阪市天王寺区	大阪市指定
9	実業家	旧寺田家別邸（五風荘）	岸和田市	岸和田市指定
10	実業家	旧小林一三邸（雅俗山荘）	池田市	
11	実業家	正木美術館	忠岡町	
12	実業家	和泉市久保惣記念美術館	和泉市	
13	ホテル	リーガロイヤルホテルメインビル	大阪市北区	
14	ホテル	セントレジスホテルビル	大阪市中央区	
15	公園	香里団地公園「以楽苑」	枚方市	
16	公園	万博記念公園日本庭園	吹田市千里	
17	公園	万博記念公園汎庵・万里庵	吹田市千里	
18	公園	万博記念公園千里庵	吹田市千里	
19	公園	大仙公園日本庭園	堺市堺区	
20	公園	東雲公園「吉泉庭」	泉大津市	
21	公園	東雲公園「悠泉庭」	泉大津市	
22	寺	弘川寺庭園	南河内郡河南町	
23	寺	慈眼院庭園	泉佐野市	
24	寺	龍泉寺庭園	富田林市龍泉	国指定
25	寺	光善寺庭園	枚方市	
26	寺	金剛寺庭園	河内長野市	
27	寺	祥雲寺庭園	堺市堺区大町	大阪府指定
28	寺	普門寺庭園	高槻市富田町	国指定
29	寺	願泉寺庭園	大阪市浪速区	大阪府指定
30	寺	長杉寺庭園	能勢町	大阪府指定
31	寺	四天王寺庭園「極楽浄土の庭」	大阪市天王寺区	
32	寺	本照寺庭園	高槻市富田町	
33	寺	林昌寺庭園「法林の庭」	泉南市	
34	寺	南御堂「獅子吼園」	大阪市中央区	
35	神社	豊國神社「秀石庭」	大阪市中央区	
36	城	大阪城本丸日本庭園	大阪市中央区	
37	城	岸和田城「八陣の庭」	岸和田市	国登録
38	城	池田城跡	池田市	
39	旅館	あまみ温泉南天苑	河内長野市	
40	カフェ	GULIGULI	池田市	

3. 地域別分類表 (写真上No.は、前頁表No.と対応)

30	能勢	38		16	17	三島	18
							
40		10		4	5		28
							
13	大阪市	7		6			32
							
36		35		14			15
							北河内
34		8		31			25
							
29		2					3
							
	泉南						1
							
20		21		27	19		
							
11		12					南河内
							
37		23		9	24		22
							
				33	26		39
							



4. 気分別庭巡りの勧め

これらの庭の中から、「こんな気分の時に訪れてみて頂きたい」と言うお勧めを紹介する。

●「自然に囲まれた中で時間を忘れてゆったりしたい気分」・・・の方にお勧めの庭



河内長野市「金剛寺」の庭園拝観の入口を入ると、天野山の斜面と杉苔の地山が一体化して緑が迫ってくるように目に飛び込み、息を呑む。本坊と奥殿に囲まれた枯山水の庭園は、室町時代に創成され、戦国期には蜂須賀家政、江戸時代には雪舟流庭師谷千柳による改装がなされている。杉苔に覆われた地山、石組と、奥河内ならではの周囲の環境と融合された清々しい庭は心休まり、洗われる庭である。なお、奥殿は南北朝時代には兩朝の三上皇の御座所となり、また、寺で作られた僧坊酒は朝廷や時の権力者に献上され好まれた。現在「天野酒」として復活されている。

●「家族に優しくなりたい気分」・・・の方にお勧めの庭



江戸時代の大家屋中西家の屋敷が現在吹田市に寄贈され管理運営されている。通用門となる勝手門より入り、木々に覆われた向こう側をよく見てみると、空池の存在に、まず驚かされる。庭の全様が見えない段階で足元正面に約2mほど低く下がった地形に驚くが、足を進めて廻り込むと空池を中心とした池泉式庭園であることがよく分かる。敷地内には5つの庭園があり、それぞれに異なった趣を呈しており、屋敷を囲む庭々には家族が心豊かに過ごすことのできる雰囲気があふれている。そんな気持ちを胸に灯して帰宅しよう。

●「悠久の歴史や芸術に触れたい気分」・・・の方にお勧めの庭



泉南地域に、城・美術・食事を楽しみながら庭を巡ることのできるコースがある。南海電車南海線「蛸地蔵駅」で降り、岸和田城の復興天守に登って重森三玲作庭の「八陣の庭」の全貌を眺め、かつての城内に造られた五風荘（旧寺田家別邸で、現在がんこフードサービスの委託管理）で食事をしながら庭を楽しみ、「蛸地蔵駅」から4つ目の「忠岡駅」から「正木美術館」に向かうと、国宝を含む美術品を拝観することができ、敷地内の「正木記念邸」で茶を頂きながら庭を眺めることができる。また、車で足を伸ばせば「和泉市久保惣記念美術館」で東洋古美術の数々を拝観しつつ、新館の庭、茶庭などを楽しむことができる。

5. おわりに

今回大阪にある庭を多数巡ることにより、大阪にはたくさんの魅力的な庭があることが再発見でき、それらは、地域の方、庭に興味のある方なら知っているが、一般的にはまだそれほど知られていないことを実感した。また、行ったことはあっても、庭を目的として訪れていない為、印象が薄いところもあるだろう。しかし、庭巡りをテーマに大阪府内を見渡して見た時、また違ったおもしろさを感じることができ、新しい楽しみ方が増えるのではないだろうか。

今回、文章と写真でご紹介したが、庭は現地に行かなければその良さはほとんど理解できないものである。この報告をきっかけに興味を持ったところや、家の近所だけ行ったことがない。と言ったところがあれば、是非足を運んでみてもらいたい。

(※拝観には事前連絡、予約、拝観料が必要なところがあります。ご訪問の際は予めご確認下さい)